



高陵山 光明寺寺報 第3号

平成29年3月1日発行
発行 石狩市八幡町高岡 16-2 光明寺内



報恩講布教
齋藤断城師

わが身をば法にひてておくべきよし仰せられ候ふ

昨年も御門徒の皆様の御参拝と多大なる御協力により尊い報恩講のご縁に恵まれました。ご布教には遠く島根県より齋藤断城師をお迎えし、とてもわかり易く笑いも交え御法話を戴きました。しかし今、当時の御法話を戴くお姿を思い返すことは出来ませんが、お話の内容を思い出そうとしても一向に記憶が蘇りません。「聞いている時は有り難いと思うのだが、時が経つと何を聞いたかすぐ忘れてしまう」思い当りませんか？真宗8代目の蓮如上人の頃、ある人が同じ悩みを抱え「私の心はまるで籠（カゴやザルのこと）に水を入れるようなもので有り難いと思ってもすぐに漏れ落ちてしまう」と申しあげたところ、蓮如上人が述べられたのが上の言葉です。「その身のみ教えに浸しておきなさい…」蓮如上人は忘れる事を問題にするのではなく「とにかく聴聞をいたしましょう、阿弥陀様から御信心を戴きましょう」と述べられました。皆さんが聞いた御法話を一言一句全て覚えていたらお参りの必要は無くなります。忘れるからこそ再び聞かせて頂くのです。忘れることは実はとても有り難いことではないでしょうか。

報 恩 講

昨年の報恩講は丁度週末に当たり、子供を含め参拝の皆様にお楽しみ頂こうと思い、初日の夜のお参り前に「マジシャンやまちゃん」によるマジックショーを開催しました。「マジシャンやまちゃん」は札幌を拠点にテレビや道内外問わず芸活動を展開中のプロマジシャンで、今回初のご縁でお越し頂きましたが、さすがプロの妙技に子供達やお参りの方々には大変楽しんで戴けたようでした。その後、お初夜の御法要と御法話を挟み御門徒婦人による踊りを御披露頂き、恒例の景品争奪のビンゴゲームで締め初日終了。二日目は朝7時と満座の御法要を勤め布教使様、御法中の皆様へ御出勤の御礼を申し上げて日程終了となりました。話は変わりますが、一般的に「お寺」と聞けば「人の死の時のみ必要なところ」というイメージが多い様です。しかし、仏教とは、命ある私が仏と成ることを目的とする教えです。亡き人の命と御命日をお参りのきっかけとし、今、生かされている私自身が仏縁に逢わせて戴く事が何よりも大切であり、御先祖が望まれている事なのです。その事に気付かせて戴く場が「お寺」であり、その寺にまず足を運ぶ事が何より大事なのです。中には寺院という厳粛さが求められる場所で賑やかに催事が行われる事に違和感を持つ方もいるかもしれませんが、今回の試みがお寺を身近に感じ、その結果、自己



の命の根っこには多くの御先祖が命を相続下さったお陰と感謝の念を抱きかけになればとても有難い事ではないでしょうか。今後もお寺としての本分を外れる事無く、皆様に集って戴けますよう企画をしてみたいので、皆様からも御提案を賜りますようお願い致します。報恩講は皆様よりお預かりした御懇念で勤められていますので、どうか元を取り返すためにも数多くのお参りをお願い致します。最後に報恩講修行に多大なる御協力を賜りました役員、当番地区、壮年会婦人会、の皆様へ深く感謝を申し上げます。



新たに御法中となられた小樽、正行寺御住職、岩本達典師。故、岩本善太郎さんのお孫さん。



『本堂向拝改修工事』浄財御進納の御礼

門信徒の皆様には、平素より寺門護持に特段なる御高配を賜りますこと厚く御礼を申し上げます。

先般の本堂向拝改修工事業に際し、無事に竣工を迎えられました事は、偏に皆様の格別なる御理解と御協力の賜物と重ねて御礼を申し上げますと共に、事業の終了にあたり、総会議案書に事業決算書を掲載させていただきましたので御高覧賜りますようお願い申し上げます。

予想を超える浄財御寄進により、予定の工事に追加して本堂西側窓サッシ交換と、以前は納骨堂玄関脇に安置してありましたお地蔵様を、隣接の納骨堂外階段の改修に伴い前庭へ移動し更に地蔵堂を建立させていただきました。

以前の木枠の玄関扉は長期間の風雪に曝され、特に冬を迎えると隙間から雪が吹き込み、一時しのぎに目張りを施しておりました。

しかし、本堂玄関は消防法により非常避難口に指定されており、そこに目張りがされ、本来の目的を果たさない現状にお寺をお預かりする立場として改善を願っていましたが、総代会において、ご門徒の皆様のお力を賜り改修を目指すことを御提案頂き、この度の完成を見ました事は偏に篤信なるご門徒の皆様のお寺に対するこの上ない愛情の表れと深く感謝を申し上げます。

経済事情の悪しき折でありながらも、「お寺を守るのは檀家の当然の義務だから」と快く御浄財を差し出して下さった方のお言葉を思います時、住職自身甚だ微力ながらも、寺門の護持発展に努力精進を惜しむことなく与えて下さった責務を果たしてゆく決意を改めて申し上げ、書中にて甚だ略儀ではございますがこの度の御寄附御進納の御礼とさせていただきます。

平成 29 年 1 月

高陵山光明寺住職 西井正了



旧 向 拝



改修後の新たな向拝

平成 29 年度門信徒定期総会 開催

本年 1 月 16 日、光明寺本堂に於いて平成 29 年度門信徒定期総会が開催され、昨年度事業報告と決算及び監査報告、今年度の事業計画と予算案等々について審議を戴き、お陰様にて提出議案が可決を戴きました。最後に今総会が総代の任期満了に伴う改選となりましたが席中、総代長の松本丞様が退任を申し出、選考委員による審議の結果、ご意向を尊重し了承する事とし、新たに総代として岩本道則様に就任をお願いし快諾を賜りました。松本丞様には平成 19 年総代に、同 23 年には総代長に就任戴き、爾来、当寺の護持発展に無上なる御尽力を賜りました。思い返しますと、平成 23 年には住職継職に当たり本山での補任式出席と継職記念法要の実行委員長、同年 7 月に当



前総代長 松本 丞様

寺第 2 世坊守、翌年 4 月には第 3 世住職の寺葬にあたり葬儀委員長として、又、一昨年には永年の懸案事項でありました老朽化に伴う本堂向拝改修工事、そして今でも身の縮む思いがしますが住職の病氣療養とその都度先頭に立ち、卓越なる指導力の下、光明寺及び門信徒を統率された功績は寺史に残る事で有りましょう。この度の結果は誠に残念ではありますが、今後も叱咤、助言を戴けます事を約束し、住職自身甚だ微力ながらもそれを励みに与えられた責務を全



乾杯は中村晴雄様

うすべく今後共御協力の程、伏してお願い申し上げます。尚、総代の新体制は次の通りとなりました事を御報告申し上げます。総会後には恒例の新年会が元副総代長の中村晴雄様の乾杯に始まり懇親を深めました。



【総代新体制】 任期:平成 29 年より 3 か年

	責任役員	総代長	藤岡 暎市氏	岡本 暎市氏	氏	氏
	副 総 代	代 長	沖 本 吉 剛 勝 洋 道 一 則	沖 本 万 本 上 本	光 三 彦 一 則	氏 氏 氏 氏
	総 代	・ 庶 務	沖 惣 村 岩	沖 惣 村 岩	光 三 彦 一 則	氏 氏 氏 氏
	総 代	・ 会 計	沖 惣 村 岩	沖 惣 村 岩	光 三 彦 一 則	氏 氏 氏 氏
	総 代	・ 代 表 監 事	沖 惣 村 岩	沖 惣 村 岩	光 三 彦 一 則	氏 氏 氏 氏
	総 代	・ 監 事	沖 惣 村 岩	沖 惣 村 岩	光 三 彦 一 則	氏 氏 氏 氏

永代経志納・仏具等寄贈

光明寺が明治 25 年に高岡説教所として開教以来 120 余年を数えますが、今、私達が心安らかにお寺に集いお念仏を悦ぶ事が出来るのも、当地の念仏の灯りを絶やさぬよう寺門護持に御苦勞を賜った歴代門信徒お一人お一人のお陰です。お寺の施設一つ、仏具の一つ一つ全てが御門徒の篤志によるものであり、その篤志の一つが「永代経志納」といいます。光明寺から「永代」に亘り「お経」の音が途切れない事を願い、進納戴く事を永代経志納と申します。当寺では永代経の御縁を結んで下さった方（主に故人）の法名と俗名を永代経軸（右上写真）に記入し、春秋の法要を厳修していますので皆様には御参詣の折、内陣右側に御安置のお軸をご覧戴きますよう御案内を申し上げます。ここに、平成 23 年の住職継職以降の志納品の御報告を申し上げます。



故白井一男様ノブ様
寄進 鈴木徳子様
放送機材一式
打敷（うちしき）

寄 贈 寄 贈
46 型テレビ 石山俊一様 寄進 仏教壮年会一同様
テレビ台 中村信男様 伝道掲示板・32 型テレビ

故松本幸子様
寄進 松本時男様



故三木サヨ様
寄進 三木 要様
冬用布袍

故大浦ユキ様
寄進 大浦 勲様
夏用五条袈裟

故浦 年男様
寄進 浦 洋子様
経机 1 対、金具打椅子
鑿台 余間用椅子 10 脚

故毛利賢一様
寄進 毛利トキ子様
三鳥彫刻前机



故小池勝慶様
寄進 小池梅子様
登高座
向机・脇机・磬台

故平野 武様
寄進 平野八重子様
椅子式礼盤

故岩本テル様
寄進 岩本俊一様
立経台

故森田弘義様
寄進 森田勝弘様
三鳥彫刻前机

阿弥陀さま・葬儀に想う

『阿弥陀如来』^{あみだによらい}浄土真宗の御本尊^{ごほんぞん}、つまり礼拝の対象とする仏様で衆生^{しゅじょう}(私達人間の事)をお浄土にお導き下さる唯一の仏様です。阿弥陀様のお姿を観察しますと右手を挙げ、左手を下しています。これを「印相」といいその手の形でお悟りの内容や働きを表します。浄土往生を目的とする浄土真宗、光明寺の阿弥陀様の手の形は全ての衆生^{おさ}を撮め取って決して見捨てる事無くお浄土へ導くお慈悲の心を表すお姿「攝取不捨印^{せつしゅふしやいん}」といいます。

本尊・阿弥陀如来



ところで最近の葬儀の在り方についてですが、民間の斎場ホールや自治体の会館等を葬儀会場に選ぶ方が多く、お寺を葬儀会場に選ばれることがここ数年無くなりました。様々な事情もあろうかと思いますが、生前足繁くお寺参りに励み阿弥陀様へ手を合わせ、御法話を聴聞されていたご門徒が人生の締め括りである葬儀に際し、親しまれたお寺と阿弥陀様の前を素通りし、仏教とは縁遠い施設を会場とすることに寂しさを憶えます。皆様の御先祖が大変な時代の中御苦勞を重ねながらも、心の安らぎの場として、親族、縁者が御往生されたお浄土を身近に感じたいがために守ってこられた御本尊様に、臨終のお念仏を申し上げることは残された私達にとって、とても大切な務めであり、親族、縁者の御往生が与えて下さった最後の教えではないかと思うのです。

平生業成^{へいぜいごうじょう}…「平生」とは日常、日々戴く命、「業成」とは目的を達成すること。臨終を迎える際に阿弥陀様のお迎えを期待するのではなく、今、命の有るうちに南無阿弥陀仏のお念仏とのご縁を戴くことにより、生前中に往生成仏が決定することを平生業成といいます。阿弥陀様は私の命終に合わせて迎えに来るのではなく、お念仏を戴いたまさに今、死後の往生浄土の決定^{けつじょう}を戴くのです。残された日々、こころ新たにお念仏を戴きましょう。

平成 29 年のご法座、行事予定

4月24日(月)	午後 1 時	春季永代経法座 布教、三笠市善行寺 名和康成師
6月21日(水)	午後 1 時 30 分	<small>けんしんだいししんらんしょうにんごうたんえほうよう</small> 見真大師親鸞聖人降誕会法要 石狩真宗連合寺院御参集 お斎接待(仏教婦人会御協力)
6月24日(土)		門信徒日帰り研修旅行
8月16日(水)	午後 1 時	お盆納骨堂法要
同上	午後 1 時 30 分	<small>うらぼんえほうざ</small> 盂蘭盆会法座
10月22日(日) ~23日(月)		<small>しんらんしょうにんほうおんこうほうよう</small> 親鸞聖人報恩講法要 布教、札幌市覚英寺 黒田顕城師
10月22日(日)	午後 1 時 30 分	納骨堂総追悼法要
11月中旬旬	午後 1 時	秋季永代経法座 日程、布教使等詳細未定

門信徒皆様のお寺です。自分一人の為の仏縁に出会いましょう。

皆様のお参りをお待ち申し上げます。

後記 今冬は記録的な少雪に加え、高岡特有の吹雪も無くお参りに出るにも大変楽でした。お参り先では天候の話題から始まることが多く「楽な冬だねエ」と何度聞いたことでしょうか。数年前の大雪には閉口し「もう雪はいらんわ」と言い、今冬は「こんなに楽な冬はおかしい、冬は雪の方が安心する」と言います。人間実に勝手であり、人生思うようにいかないものです。ですが春は確実にそこまで来てくれています。
文責=住職です